

ウクライナ避難者支援 のための情報共有会議 — 第26回議事メモ

日時: 2024年12月23日(月) 17:00～18:30

場所: 名古屋建設業協会ビル1F 会議室 & オンラインzoom

参加者: 36名

* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。

自治体、支援団体からの報告と質疑

＜愛知県多文化共生推進室 杉本さん＞

12月1日現在、ウクライナ避難民は 13市町において、116人、82世帯が在住。11月には今年度第1回目の寄付物品発送を行った。来年度については未定だが、今年度同様に寄付金を募集して支援事業を続けていく予定。

＜名古屋市国際交流課 石川さん＞

- ・現在約80名が名古屋市に在住、前回 70数名と報告したが増えている。すでに日本に在住されている方が名古屋市を選んで転入、新たに来日する方が名古屋市を選んでいるケースもあり、転入に伴うサポートが続いている、皆さんからも引き続きのご支援をお願いしたい。
- ・名古屋市では今年もガバメントクラウドファンディングを実施している。現在集まっているのが 34万円程、100万円が目標金額なので、ぜひ本会議参加者から知人に広めて頂けるとありがたい。

JUCA(NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川ロリュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

- ・昨日、ウクライナのクリスマス会を行った。80名以上が集まり、35名が避難者(うち14名が子ども)、久しぶりに集まり、話し合い、楽しく一日を過ごすことができた。避難から3回目のクリスマスとなるが、戦争が終わったらウクライナで家族や友人と過ごせるといいと話合った。
- ・ウクライナ料理ジートレストランでは避難者14人を雇用していて、忙しく働いている。
- ・11月で2つ目の日本語クラスが終わったが、来年度についてまだ相談中。現在、仕事を見つけるのが難しくなっているため、避難者には日本語がより大事になってきていると説明している。
- ・1月10日もヒサヤママーケットに出展予定、サロンに参加している避難者は毎回店番をするのを楽しみにしている。
- ・ベレヒーニャ(子どもたちのためのウクライナクラス)に参加している子どもが練習してクリスマス会で出し物をした。イベントのときに発表の場があるのを楽しみにしている。子どもたちは日本語も大変上達している。ベレヒーニャでは子どもたちのためのアクティビティを毎回行い皆大変楽しみにしている。
- ・今まで仕事していなかったが、来年度支援金が切れるので仕事を探したいという人が増えてきている。仕事の紹介をぜひお願いしたい。また、新規転入者のための家具家電寄付を引き続きお願いしたい。

ウクライナ避難者支援「大交流会」報告

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

・大交流会の目的・概要・参加者数は下図の通り。

○日時：2024年11月9日(土)～10(日)

○場所：三河湾リゾートリンクス(愛知県西尾市)

○目的：未だ終結の見えない本国の状況に、避難者だけではなくその家族の心身の疲弊は計り知れない。世間の関心も薄れ、各所の支援も閉じられてきている今だからこそ、長期化した避難生活による日々の疲れを癒してもらうべく、心休まるひと時を再度提供する。また日本での定住を考える方も増えていることを鑑み、昨年同様に市町村や市町村ごとの各種支援団体・士業や臨床心理士・医師などにもご参加いただき日本での生活の中で持つ疑問や相談をし、また就労については今後の自身の進むべき道について考える機会を提供する。参加者数は下記の通り。

避難者	同行者 (家族等)	専門家	自治体	通訳	ボランティア	スタッフ	ゲスト	合計
79	14	18	3	12	19	14	4	163

・多くの避難者にご参加頂くにあたり、会場のリゾートリンクス、JUCAを始め、多くの通訳者、支援登録ボランティア、自治体関係者、専門家など多くの団体、個人の方の協力があって無事に2回目を開催することができた。

ウクライナ避難者支援「大交流会」報告

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

◎大交流会タイムスケジュール◎

【11月9日(土)】

- 13:30 RSY集合
- 13:45 貸し切りバスにて出発
→しおりの説明
- 15:00 チェックイン開始
- 18:00 開会式典
 - 1.開会挨拶(栗田)
 - 2.来賓挨拶
(名古屋市松雄副市長/ 日本財団)
 - 3.宗次様挨拶代読
 - 4.献杯(コープあいち森理事長)
- 18:30 開宴
- 19:30 夕食交流会
- ・レクリエーション
- ・避難者による琴演奏・合唱披露
- 20:30 お開き
- 21:00 バーラウンジ / 自由時間

【11月10日(日)】

- 7:00～ 朝食
- 8:30 子どもの国参加者集合(対象:子ども)
- 9:00 2日目オリエンテーション
- 9:30 相談会・お楽しみコーナー 開会
- 【相談会】
 - ・テーブル①手続き / 自治体:名古屋入管職員、司法 / 行政書士、名古屋市職員
 - ・テーブル②健康 / 医療:医師、臨床心理士
 - ・テーブル③仕事 / 生活全般:就労支援アドバイザー、国際センタ ―職員
社会保険労務士、キャリア支援アドバイザー他
 - ・テーブル④子育て / 教育:児童精神科医、国際センタ ―職員、教育アドバイザー
 - ・テーブル⑤日本語:日本語教育専門家、国際センタ ―職員、名古屋入管職員
 - ・お楽しみコーナー: マッサージコーナー(鍼灸・整体)、呈茶コーナー、
お念珠作りコーナー、日本語での交流コーナー
- 11:30 閉会
- 12:30 解散(バス乗車組、自家用車組、シャトルバス組、豊田行きバス組)
- 13:00 完全撤収
- 14:30 RSY前到着、解散

ウクライナ避難者支援「大交流会」報告

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 加藤絢子、伊東さゆり

・夕食交流会では、タイムスケジュール記載に加えて展示コーナーも作り、避難者の方が製作した小物や絵を展示した。また避難者のグループによる合唱や琴の演奏、日本について質問形式のレクリエーションも行った。

・2日目のプログラムは相談会がメイン。大人が相談会に参加している間、子どもは「愛知こどもの国」で学生ボランティアなどと一緒に広い場所で体を動かして思いっきり遊ぶことができた。

・相談がない場合は、日頃の疲れを癒やしてもらうためのマッサージ(整体師・鍼灸師ボランティア)、東別院協力によるお念珠作り、西尾市名物の抹茶体験、日本語でコミュニケーションができるレクリエーションなどで楽しんでいただくことができた。

＜鍼灸師、整体師の方からコメント＞

大勢の方にご参加頂いた。針をやってみますかとお声がけすると、8割位の方が抵抗なくやってみたいと回答してくださり意外だった。施術後、気持ちよかったと感想があり、少しでも日頃の疲れを取ることに繋がっていれば嬉しい、参加できて本当によい機会だった。

＜相談会概要について(ネットワークコアメンバー 向井忍)＞

・2022年12月14日と2024年11月30日を比較すると愛知県は東京都に次いで増加人数が多く、増加率は141%で最も高くなっている。

・大交流会の参加人数は、昨年とほぼ同じ約80名であった。

・相談したい内容の変化について。「日本語の勉強」が最も多く、20(37%)から25(45%)に増加。「体や心の健康」が昨年の16(30%)から19(35%)とやや増加。

・55世帯のうち、実際には32世帯が相談をした。手続き 11世帯 12件、健康・医療 8世帯 8件、仕事・生活全般 14世帯 17件、子育て・教育 4世帯 4件、日本語 7世帯 8件、合計のべ46世帯 51件(一人で複数の相談記録も集計)

ウクライナ避難者支援「大交流会」について ～2日目「相談会」報告～

■大交流会2日目の「相談会」について、各テーブルを担当した「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」メンバーより報告をした。

①手続き(ファシリテーター:名古屋難民支援室 羽田野真帆)

専門家:司法書士、行政書士、名古屋出入国在留管理局、名古屋市

- ・今年は昨年と違い多岐にわたる相談内容となったが、定住を視野に入れた質問が多かった。年金、市営住宅の今後、中学生のお子さんの就学手続き、日本財団の支援金終了後の生活、キッチンカーで起業したい、定住支援プログラムの詳細等。
- ・去年は補完的保護手続きに関する質問が多かったが、今年は入管が専門的に対応するような質問は少なく、ヨーロッパで避難民認定を受けている友人がいるが、ヨーロッパの在留資格の有効期間が満了する前に来日したいという相談くらいであった。その質問に対しては、大使館で避難民のための査証発行が続いているので、それを取得後に来日をと紹介があった。
- ・相談会の開催方法について:たくさんの相談者が来たが、ファシリテーターがその順番を整理するのにつきっきりになってしまっていた。捌き方は改善の余地があるのでは。入管で相談会を実施する際には、参加者から事前に詳細の質問をいただいて回答を用意している。相談者側からしても頭の整理になったりして、具体性が出やすい。年金のことなどバラエティーに富んだ質問があり、持ち帰り次回対応となってしまう、対応しきれない内容もあった。質問の幅が広がったのが前年と大きく違うところ。

ウクライナ避難者支援「大交流会」について ～2日目「相談会」報告～

②医療・健康(ファシリテーター: RSYスタッフ 浜田ゆう)

専門家: 外科医、小児科医、臨床心理士

- ・相談者の半分くらいが心の問題を吐露。すぐに解決とはならないので、今後見守っていくという対応になった。内容は多岐にわたっており身体的に調子が悪いところ、どこかの医者にかかったらいいかという相談には、具体的に病院の紹介をして頂くことができた。相談ができなかった方もいるのではないかなと思うが、その点での改善を今後考えたい。
- ・昨年は、緊張感・不安感などを漠然と訴える方が多く、根底にはストレスからくるものがあったように思う。今年度は、ストレスを自覚的に話している人が多かった。去年はどこかの医療機関に行けば良いか？だったが、今年は、一度は医療機関にかかったがうまくいかなかったので、どうすればよいかという質問が複数あった。

③仕事・生活(ファシリテーター: コアメンバー 吉村なる美)

専門家: 社会保険労務士、企業就労支援アドバイザー、難民就労支援 NPO、名古屋国際センター (NIC)、

- ・昨年に比べ相談が多様化、具体的。仕事をしたい、転職したい、生活保護、職場トラブルの労基署案件の相談もあった。
- ・避難者のいるテーブルに行き雑談から始め、生活や仕事の話をしてくれる方もいた。パートの仕事に満足しているわけではなく、次のステップをどう作ったらいいかわからない、ステップに進む際の自分の体力・気力がないという葛藤を抱えている方もいた。
- ・朝日大学の学生とコンタクトを取り、2月頃に相談会を開催できることになった。一日目から一緒に飲食をともにしたことで相談に対するハードルを低くすることができたのではと感じた。手続きのテーブルで起業の相談があったそうだが、協力体制をどうとれるか考えたい。

ウクライナ避難者支援「大交流会」について～相談会報告～

- ・生活支援金の受給が切れる方のデータがあると対策を考えられるので、把握できるとよい。
- ・限られた時間の中で伝えられる情報は少ない。名古屋外国人雇用サービスセンターなど相談できる場所を紹介することは大事。どこにいけばどんな相談が受けられたり、どう解決できるのかということを紹介できるのが大事。雰囲気をもっとポップにして相談しやすいように。過去の相談事例を事前に避難者に伝えることで、より相談のハードルを下げるができるのでは。
- ・相談内容がより具体的になってくるからこそ、事前の情報交換がより大事になってきている。専門家同士の連携、他の専門家に繋げるなどの対応していただいてよりスムーズにできた。
- ・避難者の自立・自発につなげられるかが課題、一緒に検討していきたい。

④子ども・教育(ファシリテーター:コアメンバー 戸村京子)

専門家: 児童精神科医、多文化教育支援 NPO、名古屋国際センター (NIC)

- ・2歳半子育て中の母から自分が就労のために勉強したいが、子どもを預けられるところはないかとの相談。日本語テーブルと連携して対応した。
- ・ウクライナで11年生(18歳)まで終えて、日本で学びたいという相談。通訳者がご自身の体験を交えながら母国語で対応してもらうことができた。日本の大学に入るのは大変なので、パスウェイズジャパンなどのプログラムを紹介したが、その後、断られたという話もあり、なかなか難しい、日本語の勉強にもハードル。今も日本語学校で頑張っているようである。
- ・シェフの勉強をしたいという相談。調理を学べる大学は名古屋にはない、調理師の専門学校を紹介。奨学金の制度がないので、お金がかかると話したところ、ひとまずアルバイトでお金を貯めるという事になった。
- ・ウクライナのオンライン授業を受けている大学 4年生。日本の大学に入りたい希望があるが、パスウェイズジャパンのプログラムは断られたとのこと。若者は一日一日が不安な日々。寄り添っていけるようにしていきたい。

ウクライナ避難者支援「大交流会」について～相談会報告～

⑤日本語教育(ファシリテーター: RSYスタッフ 種村香奈美)

専門家: 専門家: 日本語教育専門家、名古屋国際センター(NIC)、名古屋出入国在留管理局

・事前アンケートで、相談希望者が 25件と最も多いテーブルだったが相談に来たのは 5件、当日相談者も含めた総数も 8件のみだった。別のテーブルの専門家からの紹介で日本語テーブルに来た人もいた。定住支援プログラムへの関心が高い一方、詳細が良く分からないとの声も多く、まずはプログラムについて入管より案内いただいた上で次回プログラム開始の 4月までの間に日本語を学べる機会を他の専門家より紹介した。仕事等の理由でアンケートでは定住支援プログラム参加は困難と回答していた人も、夜間コースなら参加できそうなど新たな気づきを得ていた。またすでに定住支援プログラムを受講している避難者からこれから受けた人へ避難者同士が経験を語り助け合う場面も目にする事ができた。

・避難者の日本語学習への意欲をひしひしと感じた。定住支援プログラムに参加したがひらがな読み書き程度のレベルまでしか習得できていないので引き続き学びたいという相談があり、避難者の居住地に近い教室を NICより紹介して頂くことができ、連携の重要性を感じた。

・昨年度より絞り込んだ相談が多かった印象。既に日本語を学んでいる人が多く、会話は勉強したがさらに学びたい、 JICEの就労支援講座で学んだが、日本語学習を継続したくオンラインでできるところを探しているなど非常に具体的な相談内容だった。定住支援プログラムの日本語をまず勧めるのがいいと専門家同士で合意を取りつつ、まずは入管に案内頂く流れを作り、連携を取ることができた。より相談をしてもらいやすくするための工夫として、日本語教室の案内をするだけでなく、その場で一緒に申し込みもできると思った。 WEB申し込みもハードルが高い、電話で問い合わせするなど、日本語はそもそもできない方にとってさらにハードルが高い。申し込みに関して通訳サポートがあるよといった、踏み込んだ事後フォローがあるといいのでは。

・相談会開催方法への意見。相談が一か所に集中してしまうと通訳が限られ、深いところまで相談がしにくい。ある程度タイムスケジュールを組んだ方がいいのではないかな。

「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」挨拶

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定 NPO法人レスキューストックヤード(RSY) 代表理事 栗田暢之

- ・戦争に翻弄されているウクライナ避難の方々に何ができるのかを考え続けた1年。当初は避難をされて大変でしたということだったが、それぞれの人生を一人一人が考えていかなくてはいけない時期に来ており、それをサポートしていく。本日も、ストレスを自覚的に話す方が増えたといった発表があったが、一人一人がそうした課題を捉え始めたということではないか。
- ・一人一人の自発、自立を促しつつ、日本で生きる方にはその決意を促しつつ、孤立孤独を見逃さないという姿勢で来年以降も携わっていきたい。
- ・日本全体では支援が下降線であるが、皆様のおかげで継続できている。より多くの方と交わりながら励んでいきたい。

ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義:レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行(金融機関コード: 9900)・〇八九(ゼロハチキュウ)店(店番: 089)

当座 0215694 口座名義:レスキューストックヤード

※領収書は認定 NPO 法人レスキューストックヤードからの発行となります。